



関取を目指してガンバレ!
初場所、序二段で好成績をあげた、市内浦ノ入出身の島山力士（二所ノ関部屋）が1月25日市役所を訪れました。市長は郷土のためにも、ぜひ関取になって欲しいと「闘魂」と書いた色紙を贈り激励しました。



福はーうち! 鬼はーそと!
延命地藏尊を祭る高森の長谷川壽満さん宅で、2月4日恒例の節分行事が開かれました。集まった善男善女は、長寿と福がさずかるという豆ひろいに大わらわ。



59年度の市立と私立（公認）保育園の入園面接が1月24日から行われました（木崎出張所で）。今年は、昨年より約200人も少ないため、今月25日まで園児の追加募集をしています。



初春の大当たり
年賀状の一等が当たり、豊栄郵便局長から電子レンジを受け取る朝日町の佐藤国男さんの奥さん。春から縁起がいいとうれしさいっぱい。また、栄町の近藤昌代さんと、長戸呂の内藤秀晴さんも一等を当てました。



(14)

紙こよりの鬼子母神

当市前新田の日蓮宗延寿庵には、福島潟の開発者山本文右衛門の墓が建てられている。

十数年前、丈右衛門を調べるために延寿庵を訪れたとき、たまたま紙こよりで作られた五十センチほどの二体の異様な仏様を何様と判らぬままに拝見したのである。

仏様の一体は破損がひどく、一体はほぼ完全であった。庵主が病



患中のため、その由来についてはお話を伺うことができず、御内儀では要領を得ぬままに終わった。村人の伝承はまちまちで、ついに由来については判らずに過ぎた。後年に至って、「こより仏」の作者が沼垂町の船大工善松という者であることを知った。

幕制時代新潟と沼垂の港では、船舶の荷揚げの利権をめぐって、幾度となく争いが起き、その度に江戸幕府評定所に公訴し、裁定をあいんでいた。しかし、新潟方は普代大名の長岡藩牧野侯の支配地であり、沼垂方は外様大名の新発田藩溝口侯の領地であったため、裁定はいつも沼垂方の不利に終わった。

文化三年（一八二〇）この年、またまた港の争いが再発した。いつもながらの沼垂町の不利を悲憤

慷慨していた船大工善松は、ついに志を同じくする者を誘い集めて川向うの新潟側の船に火を放って抗議した。これを知った新発田藩は、長岡藩をはばかり、また後難の大事に至るを恐れ、主謀者である善松を召捕り投獄し、九か年間の入牢を申

付けた。善松二十二歳の若さであった。

善松は日蓮を奉ずる信者で、獄中で毎日紙こよりを作り、それで鬼子母神様を何十体も作った。善松は赫免後に僧形をなし、全国を行脚して信者から浄財を集めた。その資金で日蓮上人流島の地佐渡国巡拝者のための「無料宿泊所」を開いた。今の沼垂東五丁目あたりであった。この宿泊所は善男善女の巡拝者に大いに利用され、感謝された。

船大工の善松もその徳をもっていつしか善松上人と崇められるようになった。

前新田の延寿庵に紙こよりの鬼子母神様が安置されたのは、延寿庵が日蓮宗であり、窮乏生活をおくっている福島潟開拓農民の信仰と幸せを望むために、地方巡歴のおり延寿庵に立寄り、祈願の対象としたものであろう。これと同じものが新津在にあると聞くが、県内のどこかの寺や庵に善松上人の遺作が残っていると考えられる。

沼垂に今でも善松上人の子孫といわれる高橋家が現在し、日蓮宗真善寺に善松上人の墓が建てられている。市史調査員 古田島貞市

早通地区がモデルに指定 国の「コミュニティ推進事業」

自治省が五十八年度から新しくスタートさせる。コミュニティ事業推進地区に、市の早通地区が指定されました。

この事業は、都市周辺地区のコミュニティ活動を育成するのがねらいで実施期間は五年となっています。今回指定されたのは、各道府県から申請のあった五十か所で、県内では早通地区一か所です。早通地区は、自治会組織もしっかりしていること、祭りや運動会などの各種行事が実施されている点が認められたものといえます。これからは、住民の自主的活動によってさらに連帯意識、自治意識の高揚を図り、地域の一体化を目指した組織づくりが期待されます。

